

「…何やってるんだ、お前は」

「何って、ハロウィンだから」

トリックオアトリートしに来たのよ

…で、返事無かったからイタズラしてる最中♪」

「そりゃ寝てたんだから返事できないわな…」

「ほんととはクレアちゃんに  
トリックしたかったけど、  
あの子、私を置いて男の子と  
デートに行ったのよ！」

私を置いて!!男の子と!!デートを!!」

（つまり八つ当たりしに来たのか…）



「ふん、どうせならもつと可愛い  
女の子や子供とやりたかったけど、  
身近な子だと面倒になるし、仕方なく  
あんたで我慢してるんだから、感謝しなさい」  
「…何の感謝だ、何の…  
っておい、生でやってるじゃないか！」

「大丈夫よ、全部精気に変換して、  
孕む前に消化するから…ってか、  
そもそも人間の貧弱精子で孕むような  
ナマヘー様じゃないってのw」

「そうやって過信するのが…つぐ、  
おい、もう射精るからいい加減…」

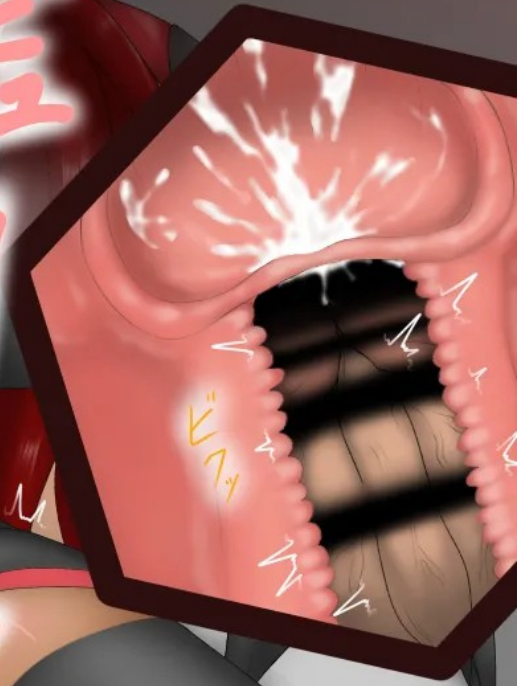
ニヤッ  
スワカ  
パンッ  
パンッ



「…えい♪」

「ぐっ、ーッ」

ビュ  
ビュ  
ビュ



「…っぶ、勢いやっぱw 何だかんだ言って、私の腔内に出したかったんでしょ？ それとも、精一杯我慢して、こんな早漏なの？w」

（…こっちが止める前にいきなり

腔内締めて射精促しといて、こいつ…）

「うーわ、結構出したわねw 何々、  
そんなに私の事孕ませたいの？w  
でも残一念♪全部無駄弾になるわ」

「……………」



ニカッ

「はん、何よ？こんな状況で  
いくら睨んでもダツサいだけよ？  
ま、コレもまだまだ元気みたいだし、  
私が満足するまではトリックしてあげるわ♪」

数時間後…

「…ちよ、ちよつと…  
いつになったら  
あんたの精子尽きんのよ…?」

「ぐっ…そつちこそ、  
まだやる…つもり、か…?」

「…ッ、ここで引いたら、まるで私が  
人間に負けたみたいになるじゃない!!」





「ツあああああ♡♡♡」

「うっく、うっく…ツ」

（あ、ああ…消化…

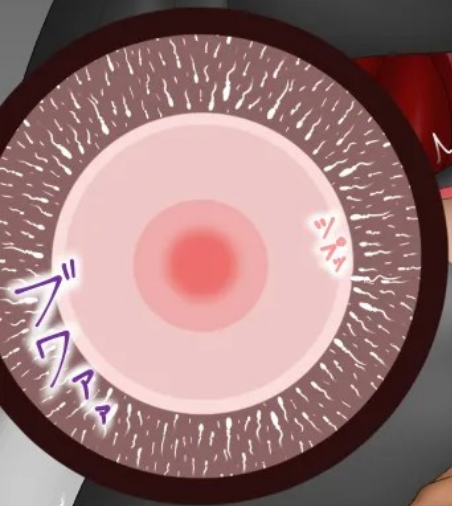
間に、合わ……ない…

うう、凄…い出て…る♡）

「おい…そんなに、絞られると…つぐう?!」

「や…ああ♡ダメえ♡」

またツ…イツく…うっく♡♡♡」



ビュッ

ビュッ

たがん

キウウウ

ゴッ

ビュッ

ビュッ

「おツ…おお…♡」

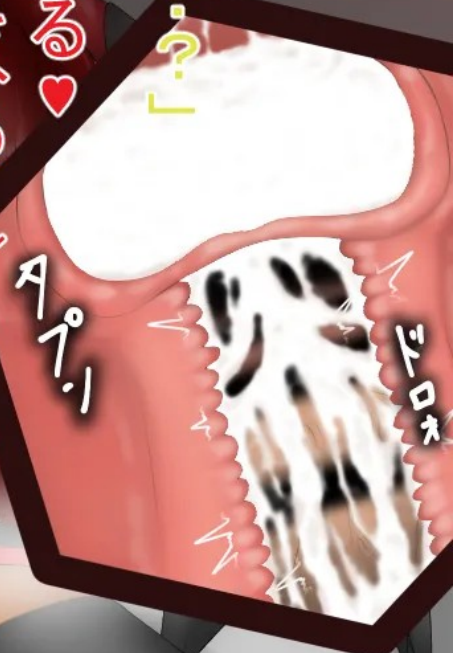
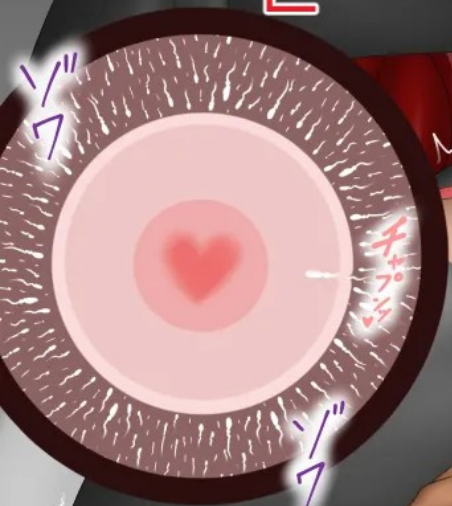
「くっ…も、もう限界だ」

「…？…お、おい、ナマヘー…？」

（あああ…受精、しちゃってる♡  
でも、今…ならまだ、消化でき、る…）

「…ふう…ふう、こ、今回は特別に、  
引き分けって事にしてあげるわ…ツ♡」

「…もう何でもいいから、  
いい加減、寝かせてくれ…」



数日後…

「…ハロウインは終わっただろ」

「調教よ、調教!! 前回の件で、

あんたが私と対等とかいうアホな

勘違いをさせない為に、教えに来たのよ!」

(最初から全力で搾り取って、速攻で墜とす!)

本気を出せば、ただの人間が悪魔の私に勝てる訳…)





「っ…射精るッ!!」

「ッ、あああ、ま、また、  
イツ…く、うううううう♡♡♡」

（い、やあ…♡人間相手にい…♡  
ダメなの、にッ、受精…しながら、  
イク…ッの、気持ち…良い♡♡♡）



数時間後：

「……しまった、結局流されて  
またこんな時間まで……  
おい、ナマヘー？お、おい大丈夫か……？」

「お、お……おツ♡♡♡」

「……あー、どうしたものか……はあ……」

受精後の、精気への変換と消化が  
間に合わず、ナマヘーは妊娠した











ニカッ

ニカッ...







クワッ

クワッ

たぷん

ブ

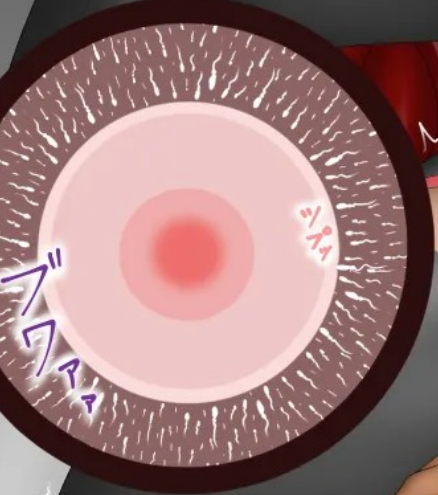
ビュ

ク

キウウウ

ツ

ビュ













ビュッ

オオ♡

オッ♡

ビュッ

たふん

トクッ♡

トクッ♡

キョッ♡

キョッ♡

「オオ...」

おはよう

ビュッ

ビュッ♡

